

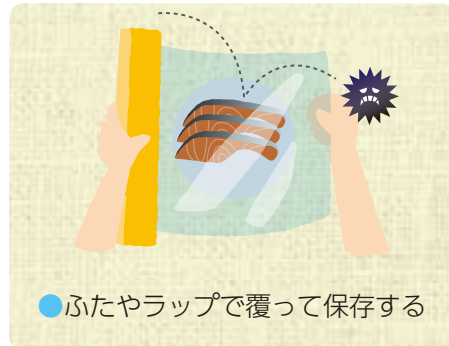
8月は食品衛生月間 基本を守って食中毒を防ごう

夏は気温が高くなり、食中毒が発生しやすい時季です。食中毒予防の3原則を守り、食中毒を予防しましょう。

問い合わせは 衛生検査課 ☎027-220-5778

食中毒予防の3原則

その1 菌をつけない



その2 菌を増やさない



その3 菌をやっつける



家庭でできる食中毒予防の6つのポイント

- ① 食品の購入
 - 消費期限などの表示をチェック
 - 肉や魚は分けてビニール袋に入れる
 - 寄り道しないで真っすぐ帰る
- ② 食品の保存
 - 帰ったらすぐに冷蔵庫へ
 - 肉や魚は汁漏れしないように
- ③ 下準備
 - 冷蔵庫は詰め込みすぎずにスペースの7割程度に
 - 冷蔵庫は10度以下に
 - 冷凍庫はマイナス15度以下に
- ④ 調理
 - 調理中は小まめに手を洗う
 - 野菜もよく洗う
 - 包丁やまな板で肉や魚を切ったら、すぐに洗剤で洗って熱湯消毒
 - 生肉や魚は生で食べる物から離す
 - 食品の解凍は冷蔵庫で
 - タオルやふきは清潔に
 - 調理器具は定期的に殺菌消毒
- ⑤ 食事
 - 食事の前に手を洗う
 - 長時間室温保存しない
 - 食器は清潔なものを使う
- ⑥ 残った食品
 - 小分けし、ふた付き容器に入れる
 - かラップをして冷蔵庫へ
 - 時間が経ちすぎていたら思い切って捨てる
 - 残り物を食べるときは十分に再加熱

前橋学 市民学芸員 養成講座

前橋市の歴史文化遺産を活用した地域づくりの担い手となる「前橋学市民学芸員」養成講座(第1期)を11月まで開催中。このコーナーでは、既に開催された講座内容の一部を紹介します。第2期は来年1月に開校予定。詳細は決まり次第お知らせします。

問い合わせは
文化国際課 ☎027-898-6992

第3回テーマ 講師 上毛新聞社・宮川勉さん



戦国時代に「剣聖」と呼ばれ、新陰流を創始した上泉伊勢守。1508年、上泉城主・武蔵守義綱の次男として生まれました。幼児期より兵法・兵術を祖父や父から学ぶ。13歳のときに鹿島(茨城県)に行き、松本備前守に入門しました。帰郷後、熱心に学んだ陰流に、さまざまな流派の長所を加えるなど創意工夫し、新陰流を生み出しました。

当時の上州の地は北条、上杉の主戦場となったばかりか、武田の脅威を受けていました。箕輪城主・長野氏は数度に及ぶ武田勢の侵攻により滅亡。この攻防に長野氏側で戦っていた伊勢守の武勇を知った武田信玄は再三にわたり伊勢守に招請しました。しかし伊勢守は断り、新陰流兵法をさらに広めるための旅に出まし

た。このとき伊勢守は55、56歳のころだったと推定されています。1564年、伊勢守は將軍・足利義輝の前で上覧試合を行いました。新陰流兵法の素晴らしさを目の当たりにした義輝は、「上泉ノ兵法ハ古今ニ比類ナク天下一トイウベシ」と最大級の賛辞を込めた感状を贈りました。

また、1570年には正親町天皇の御前で新陰流の演武を行いました。一介の兵法者が御前で兵法を披露することは大変名譽なことであり、伊勢守は間もなく、それまでの位、従五位下から従四位下へ一気に4ランク上がりました。同時期に織田信長、足利義輝が従四位下であったことを考えると、いかに伊勢守の剣技と人間性が優れていたかが分かります。

日本の製糸業近代化の立役者 速水堅曹と前橋の製糸業を知る

問い合わせは 文化国際課 ☎027-898-6992

文化講演会「日本製糸業の先覚速水堅曹を語る」を開催します。日本で最初の洋式器械製糸場である藩営前橋製糸所創業の中心を担った、前橋藩士・速水堅曹。その技術を各地に伝えるとともに、官営富岡製糸場所長を歴任しました。昨年は速水堅曹没後100年。ことし6月には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されました。そこで、速水の功績を顕彰し、前橋が日本の製糸業に果たした役割を広く紹介します。

会場 群馬会館(大手町二丁目)
対象 一般、先着200人
内容 Ⅱ(第1部) 東京大名誉教授・石井寛治さんが「藩営前橋製糸所と速水堅曹」をテーマに講演(第2部) 速水家子孫で富岡製糸場世界遺産伝道師・速水美智子さん、東京外国語大名誉教授・内海孝さん、東京大名誉教授・石井寛治さん、市歴史文化遺産活用室長・手島仁がシンポジウムを実施
申し込み 8月26日(火)までに文化国際課へ

日時 8月30日(土)午後1時30分

「花燃ゆ」放映決定記念企画



あなたの疑問に答えます!

このコーナーでは、「花燃ゆ」に関する皆さんの疑問に答えます。

Q. 文はどんな性格の女性だったの?

A. 文には、兄2人と弟1人、そして千代、寿、艶の3人の姉がいました。姉の艶は早くに亡くなりましたので、文は3姉妹の一番下の妹として育ちました。そのような環境で育ったからか、兄の吉田松陰や松下村塾の塾生などからかわいがられる優しい雰囲気的女性だったそうです。また、最初の夫である久坂玄瑞の手紙を亡くなった後も大事に取っていたというエピソードがあり、文が情熱的に人を愛する女性でもあったことが伺えます。その手紙は、「涙袖帖」と呼ばれています。